

展示室1 イギリスの油彩画

18世紀から19世紀にかけて、いち早く産業革命を成し遂げたイギリスでは、美術の分野においても黄金期を迎えます。18世紀後半になると、貴族社会を象徴するかのよう肖像画が盛んに描かれました。また、四季によってさまざまな表情を見せる風景は画家たちを大いに刺激し、風景画も独自の発展をみせました。さらに日本との関わりも非常に深く、幕末に来日し、日本人に西洋画を教えたのはチャールズ・ワグマンらイギリスの画家たちでした。

ここでは、伝統的な肖像画、風景画から来日した画家たちの作品まで、多彩なイギリスの油彩画をご紹介します。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|------------------------|--------------------------|----------|------------------|
| ウィリアム・ホガース | サミュエル・マーティンの肖像 | 1758-60頃 | 油彩・キャンバス |
| サー・ジョシュア・レイノルズ | キティ・フィッシャーの肖像習作 | 1760-62頃 | 油彩・キャンバス |
| サー・ジョシュア・レイノルズ | エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像 | 1777 | 油彩・キャンバス |
| トマス・ゲインズボロ | オース夫人の肖像 | 1767 | 油彩・キャンバス |
| サー・トマス・ローレンス | ラビー・ウィリアムズ牧師 | 1790年代初頭 | 油彩・キャンバス |
| トマス・ゲインズボロ | 荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景 | 1745-46頃 | 油彩・キャンバス |
| ジョン・コンスタブル | デダムの谷 | 1802 | 油彩・紙、キャンバス |
| ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー | カンバーランド州のコールダー・ブリッジ | 1810 | 油彩・キャンバス |
| リチャード・ウィルソン | キケロの別荘 | | 油彩・キャンバス |
| ジョン・クローム | ヘレスドンの眺め | 1807頃 | 油彩・キャンバス |
| ジョン・マーティン | フレッシュウォーター・ベイ | 1815頃 | 油彩・キャンバス |
| アルバート・ジョゼフ・ムーア | 黄色いマーガレット | 1881 | 油彩・キャンバス |
| サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ | フローラ | 1868-84 | 油彩・キャンバス |
| ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス | フローラ | | 油彩・キャンバス |
| サー・アルフレッド・イースト | 九月の陽光 | | 油彩・キャンバス |
| サー・アルフレッド・イースト | スウェル川のほとり | | 油彩・キャンバス 佐藤克也氏寄贈 |
| チャールズ・ワグマン | 西洋紳士スケッチの図 | 1870年代 | 油彩・スケッチボード |
| ジョン・ヴァーレー・ジュニア | 日光の茶屋 | 1890 | 油彩・板 |
| ジョン・ヴァーレー・ジュニア | 東京、麻布 | 1891 | 油彩・板 |
| ジョン・ヴァーレー・ジュニア | 赤羽、芝公園の一隅 | 1891 | 油彩・板 |
| バーナード・リーチ | きこり | | 油彩・紙 |
| サー・フランク・ブランギン | エリザベス女王の乗船を待つゴールデン・ハインド号 | 1903-05頃 | 油彩・キャンバス 畑中俊彦氏寄贈 |

展示室2 画家とスケッチ

短く書き留めた文章や描写的な小曲、音楽入りの寸劇など、広く使われるスケッチということばですが、美術では「写生」の訳語として、眼前の風景やものを大まかに絵に描くことを意味しています。

持ち運べる画材を携えて戸外で描く風景スケッチは気持ちのよいものです。また室内で身近なひとをモデルにしたり、机の上に置いた静物を写生しながら、画家は作品の構想を練っているのかもしれませんが。ものを見る目や描く手を動かすトレーニングとしてのスケッチは、画家にとって楽しいルーティン・ワークといえるでしょう。

今回は、そんな描く喜びにあふれたスケッチの数々をご紹介します。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|--------|------------|-------------------|-------|
| 浅井 忠 | 足尾村 | 1884(明治17) | インク・紙 |
| 浅井 忠 | 綾瀬川付近 | 1885(明治18) | 墨・紙 |
| 浅井 忠 | 水汲み | | 鉛筆・紙 |
| 小山 正太郎 | 庚申山、山寺 | 1884(明治17)頃 | 鉛筆・紙 |
| 吉田 博 | 武州飯能町、入間川辺 | 1894-99(明治27-32)頃 | 水彩・紙 |
| 吉田 博 | 積み藁のある風景 | | 水彩・紙 |
| 鹿子木 孟郎 | 綾瀬(スケッチ) | 1893(明治26) | 鉛筆・紙 |
| 鹿子木 孟郎 | 綾瀬 | | 水彩・紙 |

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | |
|------------|------------|-------------------------|----------|--------------|
| 石井 柏亭 | ピサ | 1911(明治44) | 水彩・紙 | |
| 小寺 健吉 | アンシイ湖畔 | 1922(大正11) | 水彩・紙 | |
| 小寺 健吉 | 飯坂温泉 | | 水彩・紙 | |
| 石川 欽一郎 | サウス・ケンジントン | | 水彩・紙 | |
| 石川 欽一郎 | 台南の裏町 | | 水彩・紙 | |
| 安井 曾太郎 | バルコニーより | | 鉛筆・紙 | |
| 安井 曾太郎 | バルコニーより | | 水彩、鉛筆・紙 | |
| 南 薫造 | 河と並木 | | 水彩・紙 | |
| 南 薫造 | 教会堂 | | 水彩・紙 | |
| 原 撫松 | 桔梗 | | 水彩、鉛筆・紙 | 原優子氏寄贈 |
| 原 撫松 | 木春菊 | | 水彩、鉛筆・紙 | 原優子氏寄贈 |
| 原 撫松 | みかん | 1892(明治25) | 水彩・紙 | |
| 原 撫松 | 日本髪の若い女性像 | | 水彩・紙 | |
| 原 撫松 | 西洋紳士像 | | 鉛筆・紙 | 原優子氏寄贈 |
| 原 撫松 | ハンプトンコート | 1906-7(明治39-40) | 鉛筆・紙 | |
| 原 撫松 | 牧野義雄 | 1904-7(明治37-40) | 鉛筆・紙 | |
| 原 撫松 | 牧野義雄像 | 1904-7(明治37-40) | 水彩・紙 | |
| 原 撫松 | 婦人像 | 1906-7(明治39-40) | 水彩・紙 | |
| 青木 繁 | 犬 | 1902(明治35) | 鉛筆・紙 | 武田光司コレクション寄贈 |
| 中村 彝 | 少年 | 1914(大正3)頃 | コンテ・紙 | 武田光司コレクション寄贈 |
| 野田 英夫 | 座る女 | 1935(昭和10) | ペン、インク・紙 | 武田光司コレクション寄贈 |
| 河野 通勢 | 裾花川風景 | 1914(大正3) | インク・紙 | |
| 河野 通勢 | 樹木スケッチ | 1915(大正4) | インク・紙 | |
| 木村 荘八 | 空き地 | | インク・紙 | |
| 木村 荘八 | 中島君の像 | 1916(大正5) | 水彩・紙 | |
| 亀井家伝来資料のうち | 水彩スケッチ他 | 亀井よし子氏寄贈 | | |
| 亀井家伝来資料のうち | 水彩スケッチ他 | 佐藤忠雄氏、英雄氏、文雄氏、芳雄氏、信雄氏寄贈 | | |

展示室3 何に見える？色んなかたち

この展示室では、日英の作家たちが表したさまざまな「かたち」に注目します。

20世紀以降、色や線、形や素材などの造形要素そのものに美を見いだす「抽象芸術」が発展してきました。作家たちは、自身の内面にある感情やイメージを表したり、ものごとの本質だけを引き出したり、あるいは純粋な創造活動それ自体を目指したりと、様々な手法と制作態度によって独自の表現を追求しています。

一見何が表現されているのかわからなくても、「(私には)何に見える？」とご自身に問いかけながら細部までじっくり観察してみてください。色と色の響き合いや線の強弱・緩急のリズム、造形が生み出す有機的な効果、空間を切り取る立体の佇まいを楽しめるようになると、あなたの作品鑑賞はより豊かなものになってゆくはずです。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | |
|-----------------|--------------------|---------------------|---------------------------------|----------|
| ヘンリー・ムーア | 『スカルプチャー・アイデア』 V | 1980 | エッチング、アクアチント・紙 ノポートフォリオ(7点組) | |
| ヘンリー・ムーア | 『スカルプチャー・アイデア』 VII | 1980 | エッチング、アクアチント・紙 ノポートフォリオ(7点組) | |
| ベン・ニコルソン | 水差しと楕円形 | 1973 | オイルウォッシュ、鉛筆・紙、木製ボード | |
| ベン・ニコルソン | ワン・イン・ワン | 1978 | ミクストメディア・メゾナイト | |
| デーム・バーバラ・ヘップワース | 石柱(パヴァーヌ) | 1953 | 油彩・パネル | |
| 難波田 龍起 | 建物の構成 | 1954(昭和29) | 油彩・キャンバス | |
| 村井 正誠 | いそぐ人 | 1956(昭和31) | 油彩・キャンバス | |
| 山口 長男 | カラージュ I | 1950-51(昭和25-6) | カラージュ・紙 | |
| 山口 長男 | カラージュ II | 1950-51(昭和25-6) | カラージュ・紙 | |
| 吉原 治良 | 円・赤 | 1969(昭和44) | シルクスクリーン・紙 | |
| 吉原 治良 | 円・白 | 1969(昭和44) | シルクスクリーン・紙 | |
| 野見山 暁治 | 夜が明ける | 2009-2020(平成21-令和2) | 油彩・キャンバス | 野見山暁治氏寄贈 |
| 野見山 暁治 | しおどき | 1993(平成5) | 油彩・キャンバス | 野見山暁治氏寄贈 |
| 菅井 汲 | 黒 | 1959(昭和34) | 油彩・キャンバス | |

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|----------------|-----------------------|--------------|-----------------------|
| 堂本 尚郎 | 1962-18(二元的なアンサンブル) | 1962(昭和 37) | 油彩・キャンバス |
| 田淵 安一 | ラ・セーブ (樹の精) | 1957(昭和 32) | 油彩・キャンバス |
| 佐藤 敬 | 石の対話 | 1958(昭和 33) | 油彩・キャンバス |
| 今井 俊満 | コンポジション 23 | 1959(昭和 34) | 油彩・キャンバス |
| 鎌田 正蔵 | 水土 | 1957(昭和 32) | 油彩、エナメル・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈 |
| 佐藤 昭一 | コンポジション | 1959(昭和 34) | 油彩・キャンバス |
| 佐藤 昭一 | 作品 61 | 1961(昭和 36) | 油彩、パテ・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈 |
| デム・バーバラ・ヘップワース | オルフェウス (マケット 2) | 1956 | 真鍮、糸 |
| 植木 茂 | 体 | | 木彫 |
| 堀内 正和 | 顔 | 1955(昭和 30) | 鉄、セメント |

展示室 4-① ヴォーティシズムとその周辺

ヴォーティシズム (渦巻主義) は、1914 年にロンドンでウィングダム・ルイスらによって結成された英国の前衛美術運動です。第一次世界大戦にともなう技術的進展を背景に、幾何学的かつダイナミックな表現形式をつうじて、機械 (抽象、構造、明確な輪郭) と現代性 (速度、進歩、エネルギー) を賛美しました。その美学的立場は、彼らが刊行した挑発的な宣言文を掲載した雑誌『ブラスト (突風、爆破)』(全 2 巻) に明示されています。

戦争による社会的混乱や内部対立が影響し、翌年に一度の展覧会を開催したに過ぎず、その活動は短命に終わりました。しかし、彼らの芸術はその後の英国モダニズム美術の礎を築く重要な役割を果たしました。

近年、ヴォーティシズムの再評価が進んでおり、彼らの業績と後の英国美術への影響が研究の焦点となっています。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|--------------------------|---|---------|--------------|
| クリストファー・リチャード・ウィン・ネヴィンソン | 『航空機製作の六場面』 アセチレン溶接工 部品組立 エンジン製作 空中で 4000 フィートでの旋回飛行 ドイツ戦闘機—タウプへの急襲 | 1917 | リトグラフ・紙 |
| ポール・ナッシュ | 夜間行軍 | 1918 | リトグラフ・紙 |
| ポール・ナッシュ | ドイツ製二重トーチカ、ゲルフェルト | 1918 | リトグラフ・紙 |
| ポール・ナッシュ | 見知らぬ海岸 | 1920 | リトグラフ・紙 |
| シリル・エドワード・パワー | 地下鉄の階段 | 1929 | リノカット・紙 |
| シリル・エドワード・パワー | エレベーター | 1930 | リノカット・紙 |
| ディヴィッド・ボンバーグ | 『ロシア・バレエ』 | 1914-19 | カラーリトグラフ・紙/本 |
| ポール・ナッシュ | 『場所』 | 1922 | 木口木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 『イワン・ヴァジリイェヴィッチ皇帝の歌』のためのブルーフ | 1929 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 『創世記』 | 1924 | 木版・紙/本 |
| ポール・ナッシュ | 『イワン・ヴァジリイェヴィッチ皇帝と 彼の若い護衛隊と勇敢なカラシュニコフ商人の歌』 | 1929 | 木口木版・紙/本 |
| ポール・ナッシュ | 石工職人、テシガー・クロウン | 1921 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 冬 | 1921 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 森への小道 | 1921 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 冬の森 | 1922 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 庭の池 | 1922 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 乾いた地が現れる | 1924 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 闇から光が分かつれる | 1924 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 花束 | | 木版・紙 |
| エドワード・ウォズワース | 創造 | 1917 | 木版・紙 |
| エドワード・ウォズワース | 内部 | | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 楽園 | 1927 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 倦怠 | 1927 | 木版・紙 |
| エドワード・ウォズワース | 乾ドック内の迷彩船 | 1918 | 木版・紙 |
| エドワード・ウォズワース | ストリート・シンガー | 1914 | 木版・紙 |
| ポール・ナッシュ | 天空創造 | 1924 | 木版・紙 |

展示室 4-② 佐藤潤四郎とガラス

佐藤潤四郎は1907(明治40)年、郡山市に生まれました。東京美術学校金工科鍛金部を卒業後、金工からガラス工芸に転向し、日本の近代ガラス工芸界を代表する作家となります。

日本初のクリスタル専門工場「各務クリスタル製作所」へ入社した潤四郎は、同社のデザイナーとして、また一人の作家として、ガラスと鍛金の試作を繰り返しました。そして、鉄の枠にガラスを吹き込むという手法のほか、さまざまな表現を身につけていきます。また、使いやすさを追求した彼のデザインは、手になじむような柔らかなかたちがぬくもりを感じさせます。

潤四郎のガラスへの深い探求と、職人たちの確かな手仕事に織りなすガラスの多様な表情をご覧ください。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 | |
|--------|-------------------|-------------------|--------------------|----------------|
| 佐藤 潤四郎 | スタンドグラス・窯 | | ガラス、鉄 | 小林東洋氏寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | オブジェ・羊車(鍛鉄) | | 金工(鍛鉄) | 大方竜子氏寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | オブジェ・羊車 | 1980-82(昭和55-57)頃 | ガラス/宙吹・プランツ | |
| 佐藤 潤四郎 | 瓶・ガラスの神様 | | ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ | |
| 佐藤 潤四郎 | オブジェ・ガラスを吹く人(2点組) | | 金工(鍛鉄) | 大方竜子氏寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | 鍛鉄吹込花器・灯もつけて | 1986(昭和61) | ガラス、鉄/鍛鉄吹込 | |
| 佐藤 潤四郎 | 鍛鉄吹込花器(顔) | 1986(昭和61) | ガラス、鉄/鍛鉄吹込 | |
| 佐藤 潤四郎 | 花器・ちょっと考えて(樹) | | ガラス/宙吹・グラヴェール | |
| 佐藤 潤四郎 | 花器・穴があいてちょっと考えた | 1980-82(昭和55-57)頃 | ガラス/宙吹・カット | |
| 佐藤 潤四郎 | 花器(グリーン) | | ガラス/宙吹 | |
| 佐藤 潤四郎 | 花器(グリーン) | | ガラス/宙吹 | |
| 佐藤 潤四郎 | ボウル(グリーン) | | ガラス/宙吹 | |
| 佐藤 潤四郎 | 皿(グリーン) | | ガラス/宙吹 | |
| 佐藤 潤四郎 | 花器・アダムとイヴ | | ガラス/宙吹・サンドブラスト | |
| 佐藤 潤四郎 | 龍文花器 | | ガラス/宙吹・グラヴェール | 福永香氏寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | クリスタル花器 | | ガラス/宙吹・プランツ | 福永香氏寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | 雲母入り花器 | | ガラス/宙吹・雲母封入 | |
| 佐藤 潤四郎 | 花器・仏足跡ロータス | | ガラス/宙吹、サンドブラスト | 佐藤久枝氏寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | 舍利器(カレット入り) | | ガラス/宙吹・カレット融着 | |
| 佐藤 潤四郎 | 舍利器 | | ガラス/宙吹・気泡封入、プランツ | |
| 佐藤 潤四郎 | 奈良・薬師寺西塔舍利小容器(試作) | | ガラス/宙吹・プランツ | |
| 佐藤 潤四郎 | クリスタル花器 | | ガラス/宙吹 | |
| 佐藤 潤四郎 | 花器・馬車に乗るガラスの神様 | 1973-76(昭和48-51)頃 | ガラス/宙吹・サンドブラスト | (株)ノリタケクリスタル寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | 三角一輪挿し(グリーン) | | ガラス/宙吹 | |
| 佐藤 潤四郎 | 四角一輪挿し(グリーン) | | ガラス/宙吹 | |
| 佐藤 潤四郎 | 灰皿 | | ガラス/型押し | |
| 佐藤 潤四郎 | 複製「硯屏・ガラスの神様」 | | サンドキャスト | 木村四郎氏寄贈 |
| 佐藤 潤四郎 | 硯屏・いのしし | 1966(昭和41)頃 | ガラス/サンドキャスト | 木村四郎氏寄贈 |

ロビー展示 彫刻・他

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|-------------|-----------|------------|-------------|
| ●1階 | | | |
| アントニー・ゴームリー | 領域 XIII | 2000 | ステンレス・スチール棒 |
| アントニー・ゴームリー | 量子雲 XXIII | 2000 | ステンレス・スチール棒 |
| 笠置 季男 | 躍進 | 1958(昭和33) | セメント |
| ●2階展示ロビー | | | |
| 清水 多嘉示 | フランスの女 | 1927(昭和2) | ブロンズ |
| 舟越 保武 | 少女 | 1956(昭和31) | 砂岩 |
| 細川 宗英 | 道元 | 1988(昭和63) | ブロンズ |
| 佐藤 忠良 | 群馬の人 | 1952(昭和27) | ブロンズ |
| 三坂 耿一郎 | 女童(めわらべ) | 1974(昭和49) | ブロンズ |
| ●前庭 | | | |
| バリー・フラナガン | 野兎と鐘 | 1988 | ブロンズ |